

「先輩職員からのメッセージ」

社会福祉法人いわきの里

ショートステイよしま 介護職員 宗像 美歌

福祉・介護職となられた皆さん、この度はおめでとうございます。

私は幼い頃、父方の祖父や曾祖母と一緒に暮らしており、保育所から帰ると一緒にこたつに入ってお菓子を食べながらテレビを観たりお話をしたりして過ごすことが楽しみの一つでした。しかし祖父も曾祖母も歳を重ね、だんだんと介護が必要な状態となり、母が自宅で介護をするようになりました。幼いながら大変そうだなと思った記憶がありますが、母はホームヘルパーの資格を取得し、出来る限り在宅介護を続けました。その姿を間近で見ているため介護に興味を持つようになったのだと思います。

私が新卒で一番最初に配属されたのは特養でした。そこに、介護の経験が全くなかった私を可愛がり、「自分の体を使って勉強していいよ」と言って下さるご利用者様がいたのですが、徐々に状態が悪化し亡くなってしまったのです。その日私はお休みでしたが、後日出勤したときに最後まで私の名前を呼び続けてくれていたと聞きました。とても悲しかったですが、最後に思い出していただけたなんて素敵なことだと思いました。辛いこともたくさんありますが、その分忘れられない出会いがあったり、大切な思い出ができたりすることが介護の仕事の魅力だと思います。

私が今も介護の仕事が続けられている一番の理由は、お年寄りの方と接することが好きだからです。楽しいことばかりではないですが、ご利用者様と他愛もない会話をして笑ったり、感謝や労いの言葉をいただいたりすることが何よりの励みになっています。どんなときも自分が誠実に対応していれば必ずそれを見てくれている人はいるので、これからも初心を忘れずに介護の仕事が続けていきたいと思います。

大変なことも多いと思いますが、福祉・介護を志す仲間として一緒に頑張りましょう。